

# 「家庭でのお手伝い」に関するアンケート結果の概要

社会教育・文化財課

## I アンケートの概要

### 1 目的

家庭教育の充実を図る「家庭の元気応援キャンペーン」について、今年度から「お手伝いの定着」を重点的に啓発するため、県内の児童・生徒の「お手伝い」の実態や保護者の意識を把握する。

### 2 対象

- ・ 県内の小学2年生・小学5年生・中学2年生の児童・生徒の保護者を対象とした。
- ・ 地域・学校規模を考慮して小・中学校を抽出し、各学年1クラスを対象とした。

【対象学校及び標本数】

区分	学校数	標本数	
小学校	38校	2年生	731人
		5年生	742人
中学校	36校	2年生	807人
合計	74校	2,280人	

### 3 方法

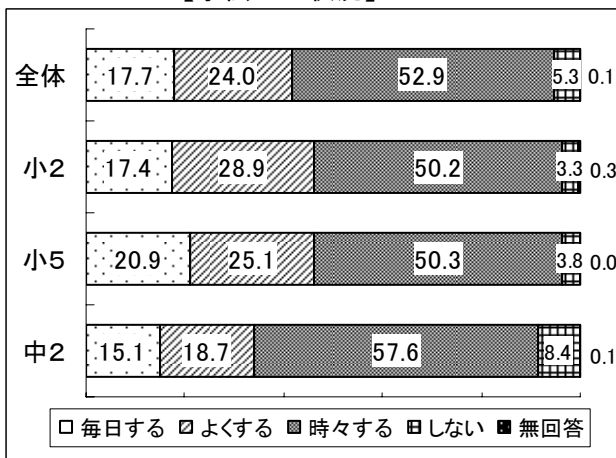
学校を通じて児童・生徒の保護者に調査票を配布し、学校を経由して回収した。

### 4 実施期間

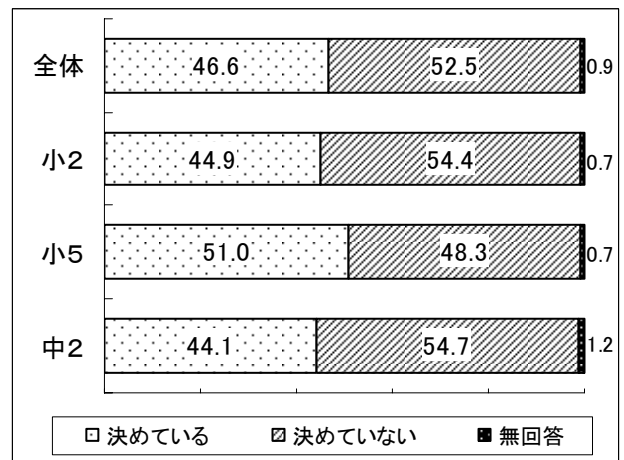
H20.9.8 ~ H20.10.6

## II 手伝いの現状

【手伝いの状況】



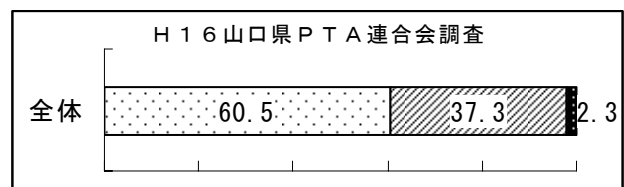
【手伝いを決めているか】



【決めている手伝いベスト5】

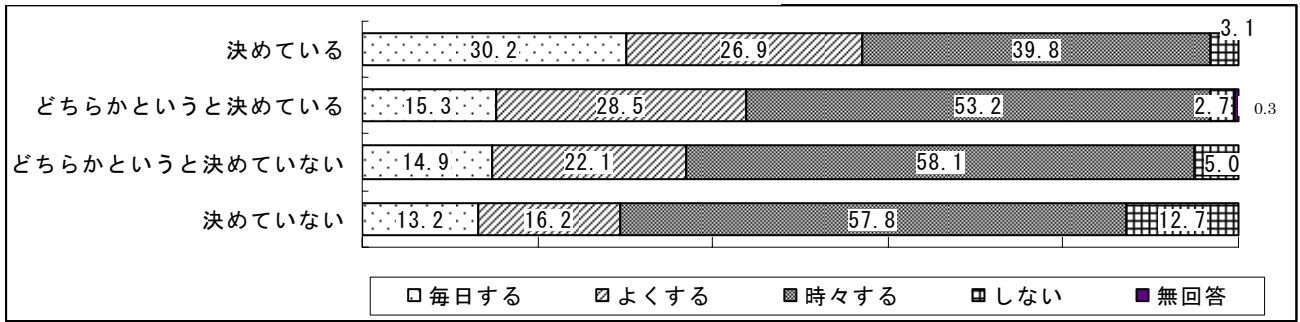
- 1 食事の準備・片付け
- 2 風呂そうじ
- 3 洗濯（とりこむ・たたむ等）
- 4 そうじ（部屋・玄関等）
- 5 ペットの世話

H16山口県PTA連合会調査



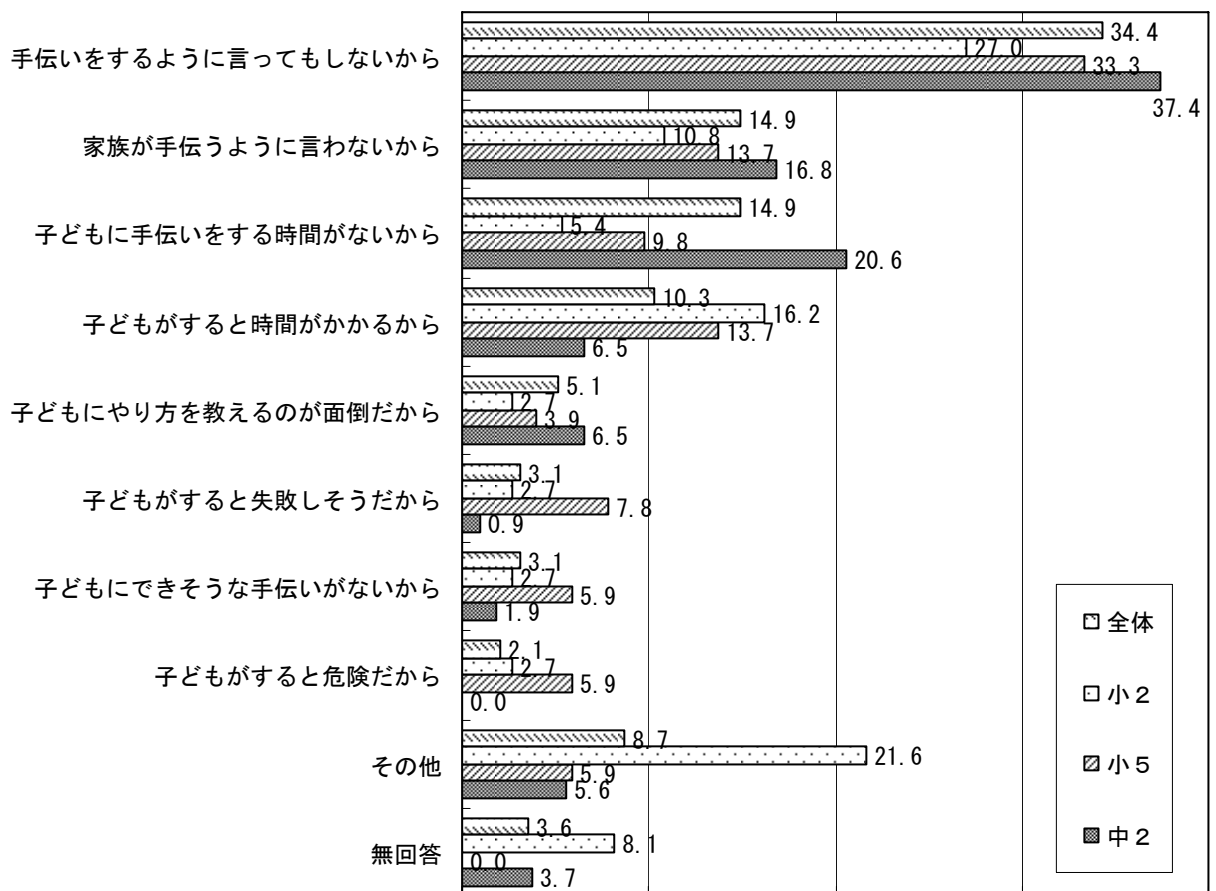
- ・ 手伝いを「毎日する」と「よくする」を合わせた割合は、中学生になると低くなっている。
- ・ 「手伝いを決めている」は、全体の46.6%で、平成16年度山口県PTA連合会調査の60.5%より、13.9ポイント低くなっている。

### 【「テレビやゲームの時間を決めている」と「手伝いの状況」】



- 「テレビやゲームの時間を決めている」方が手伝いをよくしている。

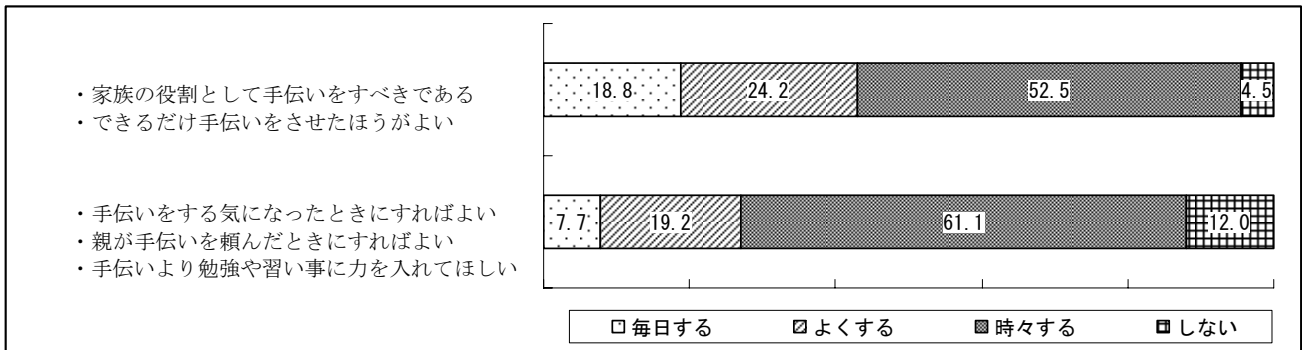
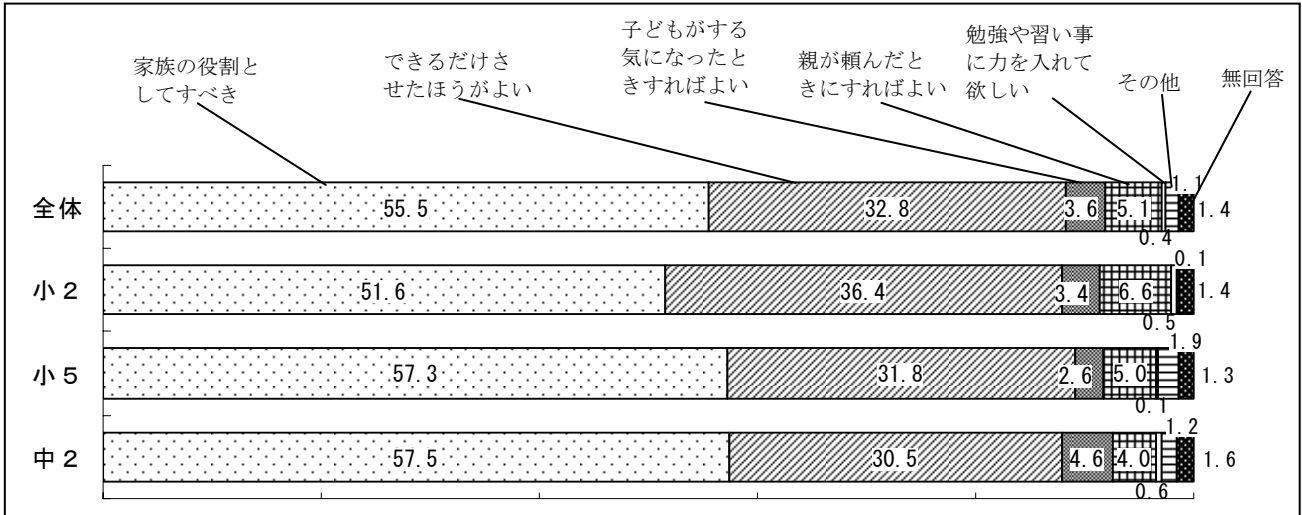
### 【手伝いをしない理由】



- 「手伝いをしない」理由として、どの学年も「手伝いをするように言ってもしないから」が、一番高くなっており、子どもが嫌がる傾向がうかがえる。一方、「家族が手伝うように言わないから」、「子どもがすると時間がかかるから」、「子どもにやり方を教えるのが面倒だから」など、保護者の消極的な姿勢がみられる。
- 小学2年生では、「子どもがすると時間がかかるから」が高くなっており、子どもの手伝いをゆっくり待てない状況がうかがえる。
- 中学2年生では、「子どもに手伝いをする時間がないから」が高くなっており、部活動や塾等で、家にいる時間が少なくなっていることが考えられる。

### Ⅲ 保護者の意識

#### 【「保護者の意識」と「手伝いの状況」】



#### 【手伝いに期待する効果ベスト5】

- 1 家族を思いやる気持ちが育つ
- 2 責任感が育つ
- 3 家族の一員という自覚がもてる
- 4 人の役に立つ喜びを体感できる
- 5 自立心が育つ

#### 【保護者が感じた子どもの変化】

- ・ 嫌なことでも我慢できるようになり、根気強くなった
- ・ 約束を守るようになり、責任感が生まれた
- ・ 家族を気遣うようになった
- ・ 家族に感謝の言葉を言うようになった
- ・ 家事への関心が高まった 等

#### 【保護者が気をつけていることベスト5】

- 1 感謝の言葉をかける
- 2 子どもにあった手伝いをさせる
- 3 できるだけ一人でさせる
- 4 要領やコツを教える
- 5 ほめる

- ・ 全体の8割以上の保護者が、手伝いは「家族の役割としてすべき」、「できるだけさせたほうがよい」と回答している。
- ・ 手伝いをさせたほうがよいと考えている家庭の方がよく手伝いをしており、保護者の意識が子どもの手伝いに影響している傾向がみられる。
- ・ 手伝いが定着している家庭では、子どもの責任感や自立心、家族への思いやりの気持ちが出てきたなどの効果をあげている。